第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国歴史教育研究協議会

（代表者　南　和男　　会員数　約16,200人）
ＴＥＬ　0422-51-4554

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」とする）が２年目を迎えた。昨年度は新テストということで，手探りの中での作問であったと思われるが，昨年度の経験を踏まえつつ大学入学共通テスト問題作成方針（以下「出題方針」とする）をより反映する作問がなされたものと推察する。本稿では，高等学校において授業を行う立場から，１の「はじめに」では本試験「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の全般的な概略について，２の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について，３の「総評・まとめ」では総括的な評価，４の「まとめ」では全体的な要望について述べる。

１　は　じ　め　に

今年度の共通テストの分析を終えてみて，昨年同様問題の内容やレベルともに教科書に準拠しており，日常の授業で対応できる内容になっており，共通テストとして極めて妥当であると考える。出題形式に関しても，設問文だけで答えが導き出せる「基礎的な知識及び技能」に偏った出題を脱却しようという試みが見られることに敬意を表したい。

「思考力・判断力・表現その他の能力」を問う出題は，それ自体では難しいかもしれない。一方で，高等学校学習指導要領（以下［学習指導要領］という。）の地理歴史科の目標は，「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生きる民主的，平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。」とあり，「世界史Ａ」の目標は，「近現代史を中心とする世界の歴史を，我が国の歴史と関連付けながら理解させ，人類の課題を多角的に考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」とある。また，「世界史Ｂ」は，「世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」とある。

今回の出題方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が，実際の作問においてどのように反映されているかということについて，大いに期待するところであり，リード文やそれに付属する図表を精読することでしか解けない出題が今後増えていくことによって，知識・理解だけでなく資料活用能力を見る設問も増加し，単なる暗記物に終わらない高校世界史の本格的な授業が高校の現場で実現できることを期待している私たちから，共通テストが大学入試問題の一方の頂点に立つべく，更なる御検討をお願いする次第である。

以下，今年度の「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の共通テスト問題について，限られた紙面の中ではあるが，今後の御検討の一助になることを期待して，本協議会の意見と評価を記す。

２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

⑴　「世界史Ａ」について

大問数５問，小問数30問構成，試験時間は60分間で，配点は100点満点である。

出題を正解の選択肢を基に判断すると（以下同じ），問題の出題形式における内訳は，以下の通りである。正文選択問題が15問，誤文選択問題が２問，２文正誤問題が２問，空所補充問題が４問（空所一つを補充する問題が２問・空所二つを補充する問題が２問），空所補充と正文選択とを組み合わせる問題が６問，年号・年代に関する問題が１問である。上記の問題のうち，文字資料から読み取る問題が４問，リード文から読み取る問題が１問，統計や数値データから読み取る問題が２問，出題された。先生と生徒の会話文から正誤を判断したり，空所補充と資料からの読み取りを組み合わせた知識と思考・判断・表現を評価したりする問題が多くみられた。なお，地図問題の出題はなかった。教科書などでは扱われていない資料の情報を授業で学んだ知識と関連付ける問題が多くみられ，思考力や判断力を問う出題が増加している。問題全体の難易度は，地域的な偏りが若干あるものの，基礎的な学習の到達度を幅広く問う標準的な問題となっている。

出題範囲（分野や時期）について，分野別の出題は政治・外交史が22問，社会経済史が３問，文化史が４問，複数分野に関するものが１問である。出題時期に関しては，古代史が０問，中世史が３問，近世史（15～17世紀）が５問，近代史（18～19世紀）が９問，現代史（20世紀以降）が５問，うち戦後史が２問である。「世界史Ａ」の目標にある「近現代史を中心とする世界の歴史」という観点からみると，近現代史が９割占めているため，妥当である。また，解答が直接21世紀に関わる出題はなかった。地域別にみると，アジア史から12問と一番多く，ヨーロッパ史から11問，アフリカ史から２問，複数地域に関わる問題が５問であった。一方で，中南米・オセアニアに関する問題は出題されず，若干偏った出題傾向となった。

第１問　世界史上の様々な建築物について

Ａは盧溝橋に関する文章からの出題

問１　空欄アに入る王朝について，適当な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問２　空欄イに入る王朝について，適当な文を選択する問題。正答となる文字の獄は２社の教科書に記載がないが，消去法で解答できるので妥当であると考える。

問３　下線部の国民党と共産党が提携した背景，当時の国民党の指導者について，正しい組み合わせを選択する問題。基本的な知識を問う問題。

Ｂはアヤ=ソフィアに関する文章からの出題

問4　空欄に入る人名とアヤ=ソフィアの歴史的変遷について，正しい組み合わせを選択する問題。アヤ=ソフィアの歴史的変遷はリード文から読み取ることができ，思考を評価する良問である。

問５　尖塔（光塔）の名称を選択する問題。写真がなくとも，問題文の「尖塔」から正答が可能。資料から読み取る問題でなく，基本的な知識を問う問題。

問６　空欄に入る人物について，適当な文を選択する問題。「カリフ制を復活させた」は正しくは「カリフ制を廃止した」であるが，カリフ制の廃止とは３社とも記載がないが，政教分離についての記載はあるため妥当であると考える。

第２問　隣接する２か国間の関係について

Ａはバンヴィルの日記からの出題

問１　会話文の正誤を判断する問題。それぞれの発言が正しいか一つ一つ見極める必要があり，他の正誤問題と比較すると難しい。しかし，知識の有無を問う問題。

問２　ウィーン会議やウィーン体制について，適当な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問３　空欄に入る国名と資料から読み取れる事柄について，正しい組み合わせを選択する問題。資料から主張を読み取り思考を評価することを意図した問題と思われるが，バンヴィルの主張については世界史の知識を必要としない。

Ｂは清朝とロシアとの条約からの出題

問４　年代整序問題。３つの資料が何かを判断した上で年代順に並べ替えるため，２つの思考が求められる。単純な年代整序ではなく，やや難だが妥当である。

問５　資料１（北京条約）をきっかけに建設された都市について，適切なものを選択する問題。正答のウラジヴォストクは教科書の本文に記載がないものもあるが地図には示されており，リード文から沿海州にある都市ということが想起されるため妥当であると考える。

問６　北京議定書を締結した下線部の国々について，誤文を選択する基本的な知識を問う問題。

第３問　世界史の授業について

Ａはサンズの著作に関連する出題

問１　リード文からエリザベス１世と判断しその治世について,適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問２　空欄に入る国名と文について，正しい組み合わせを選択する問題。基本的な知識を問う問題。

Ｂは食塩に関連する出題

問３　北アフリカの歴史について，適切な文を選択する問題。マフディーの反乱やブワイフ朝はそれぞれ１社の教科書のみの記載で，特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題であり不適切と考える。

問４　空欄に入る語と文について，正しい組み合わせを選択する問題。空欄の前後のキーワードから正答を選択できる。基本的な知識を問う問題。

問５　物資の流通や利権をめぐる出来事について，適切な文を選択する問題。正答であるタバコ=ボイコット運動は１社のみの記載であるが，その他の選択肢はすべて教科書に記載があるため消去法による解答が可能で，妥当であると考える。

Ｃはインド大反乱に関連する出題

問６　イギリス19世紀の歴史について，適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問７　下線部のシパーヒーについて説明した語句とネルーの認識について，正しい組み合わせを選択する問題。資料からネルーのインド反乱に対する認識を読み取らせる，思考を評価する良問である。

第４問　戦争と平和について

Ａは現代の国際問題に関する会話からの出題

問１　下線部の原子力や核兵器について。誤文を選択する問題。第五福竜丸は３社で記載がないが，中学校で習う範囲のため妥当である。基本的な知識を問う問題。

問２　グラフから読み取れる事柄について，正誤の組み合わせを選択する問題。各文の正

確な年号を覚えている必要があり，そのうえでグラフを読み取るため，知識を活用して思考も評価する良問である。

Ｂはクリミア戦争に関連するグラフからの出題

問３　下線部のロシア皇帝について，適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問４　空欄に入る国，グラフから読み取れる事柄について，正しい組み合わせを選択する問題。選択肢Ｙの「全て」は内容判断よりも，受験テクニックで解けてしまうため，選択肢の表現の工夫が必要である。

問５　空欄に入る国際組織について，適切な語句を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

第５問　世界史上の異文化接触について

Ａは「南贍部州図」からの出題

問１　ムガル帝国について，出来事・事柄の正しい組み合わせを選択する問題。資料の歴史的背景を問うているが，資料を活用せずとも，選択肢の正誤判断で正答できてしまう点が残念である。

問２　玄奘に関連する王朝について，適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問３　ベトナムについて，適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

Ｂは天正遣欧使節に関する文章からの出題

問４　16世紀について，適切な文を選択する問題。選択肢のサンサルバドル島は3社の教科書では西インド諸島・カリブ海の島・カリブ海と記載されており，サンサルバドル島は「世界史Ａ」では表現が不適切だが，その他の選択肢はすべての教科書に記載があり，問題としては妥当である。

問５　キリスト教について，リード文を参考に適切な文を選択する問題。リード文を参考にとあるが，リード文を読まずとも知識を活用して正答できるため，「リード文を参考」と問題文に書くならば，リード文と絡めた選択肢が欲しい。

問６　空欄に入る人名について，適切な語句を選択する問題。正答であるグーテンベルクは１社のみの記載であり，その他の選択肢も教科書によっては記載がない。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

⑵　「世界史Ｂ」について

大問は６題，計33問で構成されている。扱っている時代を正答となる選択肢を基に判断すると，古代史が４問，中世史が４問，近世史が６問でここまでで全体の約52%となる。そして近代史は10問と最も多く，現代史は６問。近現代史は約48%となる。共通テストとなってから，特に資料を活用した設問が増えたことから，昨年度同様，資料が豊富な近現代史からの出題を多くなったが，戦後史からの出題は１問と少ない。

地域別にみると，西欧・北米だけで16問と全体の約49%を占めている。次に割合の多い東アジア・内陸アジアが約21%であることを考えると，扱う地域に偏りが出ていると言える。これも法典などの資料問題を重視した結果に起因すると思われるが，高校における「世界史Ｂ」の授業の実態を反映しているといえる。全体的な分量としては，資料の読解やグラフの比較等に時間がかかるもの，60分で十分に解答可能なものであった。

第１問　世界史上の挿絵や風刺画

Ａは明代の軍事技術書に関する問題

問１　明で使用された銃の伝来についての設問。空欄アについては，直後の「常備軍として知られるイェニチェリ」という記述からオスマン帝国と判断させ，もたらされたルートについても，後の文の「中央アジアを経由して運ばれたと推定され」から陸路を経由したと判断させることを意図しており，基礎的な知識と読解力を問う問題となっている。

問２　外国勢力との関りに関連して，『天工開物』が刊行された要因を問う設問。16世紀末であることと，直後に「火縄銃に苦戦し」という内容から正解に導いている。基礎的な知識と読解力を問う問題である。

問３　基礎的な知識を問う設問であるが，明に銃をもたらした存在としてウズベク人が重要な役割を果たしていたことに気付かせる良問である。問題となっている段落からは，16世紀の西アジアにおいてオスマン帝国とサファヴィー朝が対立を深めている中，オスマン帝国がウズベク人を味方につけることでサファヴィー朝よりも優位に立とうとしたこと。また，そのような複雑な事情の中で明にも銃がもたらされていたことなど，同時期のユーラシア大陸における複雑な情勢を読み取らせることが意図されている。文章の記述内容をもっと活かし，16世紀におけるユーラシア大陸全体を俯瞰できるような問題であればなお好ましい。

Ｂは風刺画に関する世界史の授業からの出題

問４　19世紀末のフランスにおいて，新聞が普及していた要因を問う設問。19世紀中頃に輪転印刷機が発明されたことで印刷速度が向上した。選択肢の内容はどれも標準的な知識を問うものである。

問５　自然主義に代表される美術作品とその作者を問う設問。基礎的な内容である。

問６　空欄オの直前の「軍人のスパイ容疑に関する判決」と，「作家ゾラによる告発状」からドレフュス事件であると判断させている。普仏戦争以降のフランスにおいて対独・反ユダヤ主義的風潮が蔓延していた状況を理解していることを求めており，基本的な問題である

第２問　アメリカ大陸の歴史

Ａはラテンアメリカに関する会話からの出題

問１　ブラジルの歴史に関する問い。ブラジルが1494年のトルデシリャス条約によって，中南米の国々の中で唯一ポルトガル領となっていたことは基本的な事項である。標準的な知識を問うもの。

問２　ラテンアメリカにおける宗教の歴史に関する問い。標準的な知識を問う問題である。

問３　スペイン領となったラテンアメリカ諸国やフィリピンではエンコミエンダ制がとられていたことは基本的な事項である。標準的な知識を問う問題である。

Ｂはジャクソン大統領の教書に関する出題

問４　ジャクソン大統領期のアメリカ合衆国についての問い。資料の内容から正解を導くことができ妥当な問題。難易度も高くない。

問５　ジャクソニアン・デモクラシーからイギリスにおける選挙法改正を関連させた問い。イギリスの選挙法改正について，年代と改正の内容を正確に把握しているかが問われている。標準的かつ妥当な問題。

第３問　世界史上のヒトの移動

Ａは日本に留学した中国人に関する出題

問１　文中の空欄ア・イに当てはまる語句を問う設問。どちらも基礎的な知識を問う問題である。

問２　資料の年代整序である。資料Ｘは四川暴動と武昌蜂起，資料Ｙは陳独秀の『新青年』創刊，資料Ｚは科挙の廃止についてそれぞれ言及している。知識を活用して歴史的な事象の年代整序を問うものであり，出題方針に即しており妥当である。難易度は高くない。

Ｂは「民族ドイツ人」に関する出題

問３　Ｂは東欧における民族と人種について言及している。図と文章を組み合わせ，東欧におけるヒトの移動と少数民族の立場から東欧の歴史を概観させる問題である。空欄ウは地図と直後の文中の内容からポーランドであると判断させている。ドイツとポーランドの現在の国境線（オーデル・ナイセ線）は1945年のポツダム協定で形式的に定められた。その後，1950年にアデナウアー時代のドイツ民主共和国（西ドイツ），1970年にドイツ連邦共和国（東ドイツ）との間でそれぞれ国境が承認された。求めている知識と理解度は高いものではないが，深くまで学習している受験生にとって，かえって④は誤りであると断定しづらかったと考える。

問４　19世紀以降のヨーロッパにおける国民国家建設の動きとそれに該当するできごとを特定させる問い。いずれも標準的な内容である。

第４問　資料の比較から見える歴史

Ａは突厥に関する史料からの出題

問１　突厥とソグド人に関する設問。多少の読解力と基礎的な知識を問う問題である。資料を活用して地域を超えたテーマを考察させる問題として妥当である。空欄アは，６世紀に活躍したトルコ系民族であることを読み取らせ突厥であると判断させている。ソグド人については，資料１からは読み取れないが，資料２から外交や商業貿易で活躍していたことが読み取れる。いずれの教科書でも，ソグド人が商業民族として活躍したことには触れているが，資料によって具体的な活動の様子が窺い知ることができて興味深い。

問２　６世紀のペルシア人の国であることから，ササン朝であると判断させている。選択肢の内容はどれも標準的な内容である。基礎的な知識を問うている。

Ｂはイギリス憲政史に関する史料からの出題

問３　ヘンリ３世在位中のできごとと，文中の空欄に当てはまる文の組み合わせを問う設問。イの空欄に当てはまる文の正誤については，知識の理解および資料を活用し思考・判断させる能力を問おうとする意図は読み取れるが，せっかく資料を２つ並べるなら，その活用法にもう少し工夫がほしい。

問４　イギリス議会の歴史についての設問。基礎的な内容。

問５　アメリカ独立宣言とナントの王令廃止という２つの資料に関連した問い。資料は自由や平等の尊重と，信仰の抑圧の事例として提示されている。資料３アメリカ独立宣言はいずれの資料集や教科書にも掲載があるので容易に判断させられる。資料４も「ナントの王令を完全に廃止する」から，ルイ14世が出したナントの王令廃止である判断することを求めているが難易度は高くない。

第５問　資料比較から問い直す歴史の捉え方

Ａは中国史に関する出題

問１　中国史における中世と近世の捉え方を，多面的な視点から捉えることを促す問い。知識を活用して，広い視野で特定の時代の特徴や性格を捉える思考力・判断力を求める良問。難易度は高いが，設問の設定は出題の意図に即しており妥当である。また，問１での解答が問２の解答に連動するという，今までにない工夫が見られる点を大いに評価したい。資料１では文章の内容から，宋で始まった殿試に代表されるように科挙が重要

視され，それにともない皇帝独裁の性格が強まったという統治体制の変化を読み取ることを求めている。資料２では，科挙官僚が大地主である形勢戸に成長し，そこに隷属する佃戸という構図の形成といった点で支配階層や土地経営の変化を読み取ることを求めている。

問２　前出の問１と連動した問題。資料３は述べられている内容の意味が理解できているかが問われている。資料４は訓詁学に対する標準的な知識の理解を求めている。問1と連動しており，純粋に選択肢の正誤を答えるだけでなく，前問との関係性を合わせるよう考慮することも求めている。個別の事実に関する知識を活用し，時代を超えたテーマを考察させる意図があり高度な思考力と判断力を問うている。このように，現在議論されていて答えが明確でない論題について，既習の知識を活用して思考・判断させる問題は，出題の意図を反映しており妥当である。

Ｂはポリュビオスの『歴史』に関する文章からの出題

問３　文中の空欄に当てはまる語句と，その語句に関連する事項との適切な組み合わせを問う設問。エは空欄直前の記述内容からアケメネス朝であると判断させている。オは「エ（アケメネス朝）を滅ぼしてアジアにも覇権を拡大」からアレクサンドロス帝国であると判断することを求めている。アレクサンドロス大王がエジプトを征服し，都市アレクサンドリアにその名が残っていることから判断して正解できる。基礎的な知識である。

問４　ギリシア・ローマにおける歴史叙述に関する問い。古代の歴史家が持っていた歴史観を垣間見させる興味深い問題となっている。標準的な知識を問う問題。

問５　ローマ王政期についての出来事を問う，基礎的な知識を問う問題。

Ｃは戦間期の合衆国の経済情勢のグラフからの出題

問６　1914年から1939年におけるアメリカ合衆国における状況をグラフから読み取る問い。切り取っている時期から，第一次世界大戦から第二次世界大戦勃発までであることを判断させている。単純なグラフの読み取りとなっており解答は容易である。

問７　世界恐慌に対する各国の対応に関する，基礎的な知識を問う問題。

第６問　世界史上の建築物

Ａは３つのモスクに関する出題

問１　ジャイナ教についての問い。①のカビールが用語としては細かいが，それ以外の選択肢は基礎的な知識で正誤の判断が可能なものである。

問２　モスクＹ（ウマイヤ・モスク）の位置を問う設問。文中のワリード１世が分からずとも，「カリフ」「西ゴート王国を滅ぼし」からウマイヤ朝について述べていると判断させている。加えて「彼が君主であった国家の首都」からダマスクスを想起させている。ウマイヤ・モスクは初見の受験生も一定数いたと考えるが，問題作成の方針と照らし合わせると妥当な問題であった。

問３　３つのモスク（クトゥブ・ミナール，ウマイヤ・モスク，スレイマン・モスク）の建設が開始された順番を問う設問。それぞれのモスクの名称が特定できなくても，モスクの説明文から判断が可能。標準的な内容である。

Ｂはマルクス=ホーフに関する文章からの出題

問４　文中の空欄に当てはまる語句についての問い。設問文中に「『資本論』を著し」とあることからカール・マルクスであると判断させている。基礎的な知識を問う問題。

問５　19世紀以降のヨーロッパにおける都市化に関する年代整序。標準的な知識と読解力を組み合わせたもので解答することは容易である。

３　総評・まとめ

⑴　「世界史Ａ」について

本年度の「世界史Ａ」は「学習指導要領」における「世界史Ａ」の目標に照らし合わせて，地域・時代等のコンテンツ，問題の難易度，出題の形式といった面から適切な問題であった。しかし，問題作成方針にある「思考力，判断力，表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」に沿った問題の比率が低く，知識の理解を問う問題に偏っている点には改善が必要。また，高校で使用する教科書によって知識の有無の差が出る問題も数問あったため，改善が必要。また，知識の有無を問うにとどまらず，知識を活用し，さらに資料やリード文から読み取ることで思考力・判断力を図る問題が多くみられ，歴史的思考力を評価する適切な問題が多くみられた点は評価できる。

問題作成方針の中に，「知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」と記載があるが，今年度の追試験では30問中4問しか思考力・判断力・表現力を評価する問題がなかったため，改善が必要である。また，資料を読まずとも，問題文から正答に導くことができる問題もあったため，資料を載せるのであれば資料を活用して解答に至るような出題の仕方に工夫が必要である。今後は生徒が自ら課題を設定し，探究する力が求められる中，「課題の設定」→「仮説」→「必要な資料の選定」→「検証」→「自分の言葉で表現する」過程をたどるような問題を作成していただきたい。

最後に，問題作成にあたり，ご尽力いただいた委員の皆様に感謝申し上げたい。

⑵　「世界史Ｂ」について

本年度の共通テストは基礎的な知識を問う設問に偏ることなく，知識を関連付け，歴史の展開を考察させる問題や歴史的事象に関する深い理解を求める設問もあった。知識・理解・思考力・判断力を総合的に求める構成であり，問題作成の方針に即した妥当なものであった。また，求めている知識の理解の質についても学習指導要領に即しており，易しい問題から難しい問題までバランスの取れた出題だった。

昨年度から始まった共通テストは，従来のセンター試験よりも格段に資料やグラフの量が増えた。本年度は資料の活用に工夫が見られ，深い思考力と判断力を求める設問もあった。しかし一方で，図や写真については効果的に活かされていない問題が相変わらず散見される。来年度以降も資料やグラフ等を活用させる問題は多く出題されることと思うが，資料の読解力だけを問うような問題にはならないようご配慮いただきたい。また，リード文はほとんどが2人以上の人物の会話文から構成されていた。昨年度からの改善として，リード文が活かされた問題が増え，読まずとも解答できる問題は減った。そして本年度は，第５問の問１における，曖昧で複雑でもある時代区分について，個別の知識を用いて一定の時間軸の中で捉えて時代の特徴や性格を俯瞰させる問題は，知識の活用と思考力が求められる設問が出題された点を高く評価したい。今後もこのような深い思考力を問う設問を期待したい。

昨年度に引き続き，これだけの数の資料を掲載し，また知識と思考・判断を問う問題を，資料やグラフを活用しながらバランスを考慮して作成することは相当な苦労があったろうと思う。問題作成にご尽力いただいた委員の皆様には深く感謝申し上げたい。

４　今後の共通テストへの要望

「世界史Ａ」「世界史Ｂ」としての出題はあと２年となった。３年後には新学習指導要領の下で「歴

史総合，世界史探究」として出題されることになる。昨年度に公表された「歴史総合」の教科書をみると，「世界史Ａ」の教科書以上に記述内容の差が大きい。まだ公表されていない「世界史探究」の教科書の内容の精査を待たないと確たることは言えないが，「世界史Ａ」にみられたような，学んだ教科書によって有利・不利が生じるような作問は避けていただきたい。そのような意味においても，高校での学習内容とリード文の読み取りを組み合わせた問題が増えていることに期待を持っている。